

資料 1

安曇野市子ども・子育て支援事業計画

～ 平成29年度 上半期事業報告 ～

子ども・子育て支援事業計画

1 「幼児期の教育・保育」について

<所管課：子ども支援課>

【平成29年度（計画）】

[単位：人]

項目	保育認定	1号		2号		3号	
	保育の必要性	なし		あり		あり	
	年齢区分	3-5歳 教育のみ	3-5歳 幼稚園利用	3-5歳 保育利用	1・2歳	0歳	
①量の見込み		622	6	1,622	456	75	
②確保内容（受入施設）		622	6	1,622	469	81	
	教育・保育施設※	622	6	1,522	380	52	
	認可外保育施設	0	0	70	25	10	
	地域型保育事業	0	0	0	44	9	
	事業所内保育	0	0	30	20	10	
③過不足（②-①）		0	0	0	13	6	

※教育・保育施設（保育所・幼稚園・認定こども園）

【平成29年度（上半期実績）】

[単位：人]

項目	保育認定	1号		2号		3号	
	保育の必要性	なし		あり		あり	
	年齢区分	3-5歳 教育のみ	3-5歳 幼稚園利用	3-5歳 保育利用	1・2歳	0歳	
①量の見込み		510	0	1,692	518	84	
②確保内容（受入施設）		510	0	1,692	487	61	
	教育・保育施設※	467	0	1,686	422	48	
	認可外保育施設	43	0	3	1	1	
	地域型保育事業	-	0	-	38	8	
	事業所内保育	0	0	3	26	4	
③過不足（②-①）		0	0	0	▲31	▲23	

※教育・保育施設（保育所・幼稚園・認定こども園）

【実績からの考察及び今後の検討課題】

公立保育園の認定こども園化により、1号認定の子どものニーズに対する確保内容についての不足は解消した。

2号認定の子どものニーズに対する確保内容について不足は乗じていないが、3号認定の子どものニーズについては増加傾向が強まっている。確保内容に不足は生じていない。

地域型保育事業の推進（小規模保育事業所の新設）により受け皿の拡大を図っているが、ニーズの増加に追いつかない状況である。

2 「地域子ども・子育て支援事業」について

(1) 妊婦健康診査

<所管課：健康推進課>

[単位：回]

項目	平成 29 年度 (計画)	上半期 (実績)
①量の見込み	8,092	2,557
②確保内容	8,092	2,557
③過不足 (②-①)	0	0

【実績からの考察及び今後の検討課題】

平成29年度4月～7月分の実績（県外受診含まず）

引き続き妊娠届出時に妊婦健診の定期受診についてすすめていく。

(2) 乳児家庭全戸訪問事業

<所管課：健康推進課>

[単位：回]

項目	平成 29 年度 (計画)	上半期 (実績)
① の見込み	680	277
② 確保内容	680	277
③ 不足 (②-①)	0	0

【実績からの考察及び今後の検討課題】

出産後、子育ての不安な時期に、早期の訪問を継続実施していく。

(3) 地域子育て支援拠点事業

<所管課：生涯学習・子ども支援課>

[単位：人／年間]

項目	平成 29 年度 (計画)	上半期 (実績)
①量の見込み	37,154	9,085
②確保内容	37,154	25,320
③過不足 (②-①)	0	16,235

【実績からの考察及び今後の検討課題】

9か所の児童館において実施した地域子育て支援拠点事業には、合計9,085人が参加。開催回数は422回で1回の平均参加人数は、約22人であった。

(4) 延長保育事業

<所管課：子ども支援課>

[単位：人]

項目	平成 29 年度 (計画)	上半期 (実績)
①量の見込み	826	950
②確保内容	826	950
③過不足 (②-①)	0	0

【実績からの考察及び今後の検討課題】

延長保育のニーズに対して確保内容に不足は生じていないが、ニーズは増加傾向であり、現行の延長保育時間（保育所の開設時間）を超えるニーズも生じてくると予想されるが、対応する保育士の確保が課題である。

(5) 一時預かり及び幼稚園の預かり事業

<所管課：子ども支援課>

① 幼稚園における在園時を対象とした一時預かり（幼稚園での預かり保育）

(幼稚園における在園児対象)

[単位：人日／年間]

項目	平成 29 年度 (計画)	上半期 (実績)
①量の見込み	750	14
②確保内容	750	14
③過不足 (②-①)	0	0

(2号認定における定期利用)

[単位：人日／年間]

項目	平成 29 年度 (計画)	上半期 (実績)
①量の見込み	30	0
②確保内容	30	0
③過不足 (②-①)	0	0

② 保育所等における一時預かり（一時預かり保育） [単位：人日／年間]

項目	平成 29 年度 (計画)	上半期 (実績)
①量の見込み	4,285	1,570
②確保内容	4,285	1,570
③過不足 (②-①)	0	0

【実績からの考察及び今後の検討課題】

幼稚園の在園児を対象とした一時預かりについては、平成29年度から実施できる体制を

整えたが、実際の利用者は当初の見込みよりも少ない状況となっている。

保育所等における一時預かりについては、確保内容に不足は生じていないが、日によっては利用日の調整をする場合もあり、また、突発的な利用に対して保育士を確保できない場合もある。流動的なニーズに対する柔軟な対応（保育士の配置）が課題である。

(6) 病児・病後児保育事業

<所管課：子ども支援課>

[単位：人日／年間]

項目	平成 29 年度 (計画)	上半期 (実績)
①量の見込み	454	223
②確保内容	454	223
③過不足 (②-①)	0	0

【実績からの考察及び今後の検討課題】

概ね当初想定した利用状況となっており、事業が広く認知されてきたことが伺える。

現状のニーズ（申込件数）に対して確保内容に不足は生じていないが、利用申込後のキャンセルも多く、課題となっている。

(7) ファミリー・サポート・センター事業

<所管課：子ども支援課>

[単位：人日／年間]

項目	平成 29 年度 (計画)	上半期 (実績)
①量の見込み	1,344	922
②確保内容	1,344	922
③過不足 (②-①)	0	0

【実績からの考察及び今後の検討課題】

こども園、小学校、習い事等の送迎においては、定期的に利用する依頼会員を中心に例年どおりのニーズ対応をしている。

安曇野赤十字病院で実施している病児病後児事業により、サポート支援件数が減少した。ただし、利用枠が少数のため、時期によっては今後利用件数も増加することが想定されるため、受け入れ態勢は整えておく。

協力会員及び依頼会員の登録数がともに減少傾向にあるため、当事業の利便性についての広報活動を強化していく。

(8) 放課後児童クラブ事業

< 所管課：生涯学習課 >

(低学年)

[単位：人日]

項目	平成 29 年度 (計画)	上半期 (実績)
①量の見込み	381	496
②確保内容	381	463
③過不足 (②-①)	0	▲33

(高学年)

[単位：人日]

項目	平成 29 年度 (計画)	上半期 (実績)
①量の見込み	191	64
②確保内容	191	231
③過不足 (②-①)	0	167

【実績からの考察及び今後の検討課題】

上半期実績値の①量の見込みは、通年登録者数の月平均人数を計上。

上半期実績値の②確保内容は、通年定員数694人を低学年（67%）、高学年（33%）で按分した数を計上。通年の全体では、694人の確保内容に対して、560人の実績となった。

4月時点での通年の登録者数は、全体で577人で、月がたつごとに長期休業への登録に移行する児童が増加する。

長期休み中の長期休業登録者数も含めると、全体では1,031人の確保内容に対して925人の実績となった。

(9) 利用者支援事業

< 所管課：子ども支援課 >

[単位：箇所]

項目	平成 29 年度 (計画)	上半期 (実績)
①量の見込み	30	30
②確保内容	30	30
③過不足 (②-①)	0	0

【実績からの考察及び今後の検討課題】

各施設において、出産、子育てと個別ニーズに応じた相談及び情報提供をしている。また、必要に応じ相談、助言等を行うとともに、関係機関との連絡調整等を実施し支援している。

今年度から「母子・子育て相談窓口」を設置し、出産から育児まで、一貫した子育てに関する相談をワンストップ的役割として実施している。

官民協働事業による子育てガイドブックを発行し、出産・子育てに関する幅広い情報提供を行っていく。

(10) 養育支援訪問事業

<所管課：子ども支援課・健康推進課>

[単位：回／年間]

項目	平成 29 年度 (計画)	上半期 (実績)
①量の見込み	133	88
②確保内容	133	88
③過不足 (②-①)	0	0

【実績からの考察及び今後の検討課題】

保健師・助産師の個別訪問により、養育に関する指導・助言を産後ケア事業として実施している。産後に養育支援が特に必要であると判断した保護者に、家事援助等を中心に支援をするため、早急に事業委託先を選定し、適切な養育の実施を確保する。

(11) 子育て短期支援事業

<所管課：子ども支援課>

[単位：人日／年間]

項目	平成 29 年度 (計画)	上半期 (実績)
①量の見込み	67	32
②確保内容	67	32
③過不足 (②-①)	0	0

【実績からの考察及び今後の検討課題】

保護者の慢性疾患等で、親子間での感情の一時的激昂によりクールダウンするために利用することが多くなってきている。また、同じ保護者が定期的に利用したり、ひとり親家庭に限らず、夫婦間でのクールダウンのために子どもを一時的に預ける傾向もみられる。

定期的に行動観察を行い、関係機関と連携を密にしながら、養育環境や意識改善を図っていく。

(12) 実費徴収に係わる補足給付を行う事業

<所管課：子ども支援課>

[単位：人／年間]

項目	平成 29 年度 (計画)	上半期 (実績)
①量の見込み	—	4
②確保内容	—	4
③過不足 (②-①)	—	0

【実績からの考察及び今後の検討課題】

生活保護担当課と連携を図りながら対象者の把握に努める。

(13) 多様な主体が本制度に加入することを促進するための事業 <所管課：子ども支援課>

3 歳未満児の増加に対応するため、昨年度に引き続き小規模保育事業の実施に係る施設整備について、公募により事業者を募集し、補助金を交付することにより、民間事業者の参入促進を図っている。

また、新たに新規参入した事業者等に対して、保育専門員等を派遣するなど、必要な支援を行っている。